

東京物語 STORY

12

2011年 8月6・7・8日 第142回学校体育研究同志会全国研究大会速報
東京大会実行委員会編集部

分科会②③の感想

障害児体育

大宮さんの「子どもを取り巻いている環境がよりその障害を強く出させているということがある」という言葉に思わず今までの自分にドキッとさせられました。実践報告の中には、たびたび子どもの発達の時期、特徴の話が出てきました。目の前の子どもの発達はどうかという視点をおろそかにしている自分を改めて反省しました。まず課題ありきでなく、子どもとの三項関係にある“文化”をどう創るのか引き続き学びたいです。 Iさん(埼玉)

幼年体育

シュートボールの実技をしました。的の数・的の置く場所などの意味をわかりながらルールをつくっていく…。子どもの姿(認識)を想像しながらどうシュートボールを教えるのかを考えました。考えることがたくさんあって整理できず…。午後からの実践報告を聞きながら少しずつ整理していきたい。 Sさん(大阪)

たくさん動けてよかったです。ボールを触ってみるところから始めて、ただ段ボールに当たる楽しさ、そこからチーム戦になっていくまで…ついつい教師が「こうしよう!」と言ってしまいがちですが、子供達とルールをつくっていくのが、子供達にとっての必然性をうみ、子供達の主体性をつくっていくことにつながるんだろうなと感じました。シュートボールの完成形が知りたいです。

Iさん(東京)



小学校低・中学年体育(ボール運動)

曾根実践は、子どもの変化を丁寧に見つめて、若い人らしい気合いの入った実践で聞いていてすがすがしい気がしました。教材を正面から向き合うことの大切さを再認識しました。

ボール運動は、ボール、的、コート、人数、ルールでゲームの様相が変化し、そのことでねらいとの合致性が問われるので、その点を明らかにしたい。
Wさん(宮城)



「フラッグフットボール」というのがとても話題になっているので、どういう風にやるのかずっと気になっていたもので、今日実技をやれてよかったです。ゴールの大きさやコートの広さ、ディフェンスの動きの制限などで個人でその力に合わせて決められること、それらが、子どもたちが楽しいと思えるという考えの下でのことだと思います。「次はどうしようか?」とすぐに作戦を考えたくなくて、どんどんコミュニケーションが自然ととれるようになってきました。

知らないことを現場の先生にたくさん教えていただいて、助かりました。自分が楽しさを知らない子どもたちが楽しむことができない、というのを実感しました。また、クラスの実態にどう合わせていくか、どう使うかは先生の力が大きいと思いました。

Oさん(愛知)

小学校低・中学年体育(器械運動)

お二人の先生の実践報告を聞いて、自分の実践と比べることができ、新たな着眼点で自分の実践を振り返ることができました。一年生で互いの動きを見あえるようになれば、そこからの体育の授業は、ずっと変わってくると思いました。田中先生の直線を観察者に持たせておいて、肩から腰の角度を見させるのは、「使える!」と思います。

実技でねこちゃん体操で様々な動きを網羅できること、短時間の声かけでできる効率のよさを実感しました。
Mさん(京都)

小学校高学年体育

授業を計画する時の目標の立て方や、教えたいことや、分からせたい事を全ての子どもたちに習得させる為に、ゲーム記録、評価、クラス全体に広める過程を大切にすることなど多くの具体的方策を学ぶ事ができました。自分の今後の授業づくりに是非生かしたいと思います。

Iさん(大阪)

中学校体育

ソフトボールの段階的指導の細かな点を学び、初めての子でもこれなら楽しめると思いました。コンパクトにまとまっているゲーム形式の一方で、ベースの距離、フェアー空間の広がりを変えることでゲームの様相も変化するので、その辺がポイントになりルールの議論もできるのではと思いました。

Kさん(長野)

学校のあるべき姿を和光学園は証明している。(有名人の卒業生がいるということも含めて)うまくメディアを利用して、この教育理念を広く紹介してほしいと思う。(Yさん)



バスケットの実践では生徒の実態(生活の部分)を変えようという試みがあって、おもしろい部分があったが、この実践一つでねらうより、年間のカリキュラム、3年間の見通しの中でどう位置づけるかだと思う。

Mさん(滋賀)

高校体育

去年とは少し違うバリエーションも増え、よりAクイックがやりやすくなりました。ジャンプのタイミングもつかめ、気持ちよく打てました。最後の試合形式でもう少しAクイックが使えたらよかったです。去年よりコンビネーションの細かい部分が分かりました。

Oさん(兵庫)

2本の実践を検討しましたが、午前の実技と併せていろいろまだ不十分な点と課題が見えてきました。明日の分科会で詳細をつめていきたいですね。

Tさん(兵庫)

フラッグフットボール「戦略・戦術」

2対2のパスありから3対3のゲームは作戦図をかいいて実験、ビデオで検証を行ったが、ビデオで見ると何が良かったのか、悪かったのかわかりやすかった。

Iさん(熊本)

バスケットボール「戦略・戦術」

生徒にどう発見させ、考えさせ、納得させるか、とても難しいと思ったが、グループノートにせよ、スコアにせよ、練習したことの成果がわかるものであるべきだと強く思いました。ゲーム分析して、練習が意味あるもの、またこういう練習をすべきだという発想が子どもたちか

ら生まれる手助けが大事だと思っています。その意味で30秒シュートは自分の得意な場所を発見！ それを活かすために2on0の動きを考える 得意な場所でシュート！の地域がわかればよいのかな？とも思う。

Yさん

2 + 2 = 4の中で、 + 2こっちが持っているときの他の2の役割に意識を置いた。4 : 4になると、4の中で個々になると、また難しい。小学生にどこまで教えるのかどうか、中学生へのつながりを考えると、2人のコンビネーション、作戦を考えさせるところまでか。明日の授業プラン作りで、何かをつかんで帰りたい。

Yさん（宮城）

サッカー「戦略・戦術」

低学年の子どもたちに向けてのボール遊びは基礎的な技術を身につけさせるために有効だと思いました。3対2のパスによる突破の場合にはコートが広く感じましたが、3対3になった時はコートの広さが狭く感じ、簡単には抜けず、作戦をしっかり立てることの重要性が分かりました。

Oさん（熊本）



みんなでサッカーができてよかったです。(9対9)動き方が分からなくて、はじめは引いていたのですが、同じチームの人に動きを教えてもらって動き方が分かり、ボールをさわることができてとてもうれしかったです。若い男の人、ベテランの男の人に混じってサッカーができてそれもうれしかったです。若い女の人、ぜひ次回はサッカー分科会に来て下さい。

Kさん（大阪）

器械運動「表現」

2年前はできていたブリッジの足上げができない・・・という、ショッキングな現実に出会い、はじめは気持ちがくじけそうな出だしでした。そのことと共に側転も、自分のやりやすい方を逆からすると全然足が上がりなかつたり、思うようにならない身体と出会いました。「できる」ために、「わかる」ことが大切なと同時に「できる」身体を作っていくことも重要だなあと今さらながら感じました。「ぞうさん」や「ライオンさんガオー」は、そのためのステップとして自然に身体の動きを学んでいける方法だなと思います。これをしっかりさせたら多くの子が側転ができるようになりそうでマットの授業が楽しみになってきました。

Hさん（兵庫）

1年生はまだ受け持ったことがないけれど、とても丁寧な段階を追った指導がとても参考になった。無理なく生き生きとできていける喜びが子どもたちに味わえたことと思います。ありがとうございました。